



JIA 大阪地域会企画委員会 イベント VOL.19「建築見学会」 「奈良の家」

2026.09.27

暑さも落ち着き始めた初秋、奈良にある建築家自邸を訪ねました。

「奈良の家」は住宅地の一角に茂る樹木の奥にひっそりとたたずんでいた。三角形の敷地斜辺に配した庭に間に雁行した境界面を設け、内部と呼応するように柔らかく全体をつないでいる。自邸を設計した金井田氏とご家族に温かく迎え入れていただき玄関から中にすすむ。丁寧にしつらえられた植栽、庭石と木質空間のやさしさがその建築を語る建築家の情熱と混じり合って同居している。金井田氏より土地探しから竣工に至るまでのプロセスやその間に起こった出来事を拝聴しながら建築を体験していると、この住宅には独自の時間が内包されていることを感じる。

訪問したみんなでダイニングテーブルを囲みながら、静かな雨風に揺れ動く庭の景色を眺めている。談笑の中、建築をつくる楽しさを改めて感じた一日でした。

松本和也



1.



2.



3.

4.



5.



6.

1. 雨天の中、設計者の金井田氏に解説いただきながらの見学
2. 木造主材は吉野産 材木業者と大工さんとの綿密な打合せの上施工されている
3. 小さな奥行きながらも庭とのつながりを感じる軒下縁側空間
4. 開口部のディテールを解説してもらう
5. 家族の要望に応える和紙の壁は桃色の優しい配色
6. 軒先から落ちる雨が植栽と石を濡らす穏やかな景色がひろがる

Comment:

雁行型の緩やかに繋がる空間が、庭との豊かな関係性を生み出す素敵な住宅。

片岡政規

あいにくの雨の中での見学会でしたが、雨音も含めて、この家には雨がよく似合い、とても印象的な見学会でした。

細部まで徹底して考え抜かれており、どのディテールも非常に美しく納められていました。特に、建具の溝を隠すための仕組みや、フロアコンセントの蓋の隠し方には、金井田さんのマニアックなまでのこだわりが感じられ、大変勉強になりました。

ほかにも簡単には真似のできない工夫やこだわりが随所に詰まっていて、ここに至るまでの設計の道程を想像するだけで、こちらまで疲れてしまうほどでした。

中でも一番印象に残ったのは、ミリ単位まで計算された独特な階高設定です。普段、習慣的に数字を丸めることを当たり前のように考えていた自分が、少し恥ずかしくなるほどでした。

何から何まで刺激があり、大変勉強になる見学会でした。参加できて本当によかったと思います。

藤本高志

「奈良の家」

所在地：奈良県生駒市

設計：金井田雄介

用途：戸建住宅

構造：木造

階数：地上 2 階

延床面積：113.16 m²